

マニュアルとの差分は以下のとおりです。

対象バージョン: DPM Ver6.10

1. 全体

- ・ 特に明記が無い限り Red Hat Enterprise Linux 8 の手順は Red Hat Enterprise Linux 7 の手順に準じます。
- ・ 一括ファイル配置機能については、「一括ファイル配置ガイド」を参照してください。
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5/5 AP は、サポート対象外となりました。

2. WebSAM DeploymentManager ファーストステップガイド

- ・ 3.8.2. 注意事項
 - 「管理対象マシンがLinuxの場合について」
 - 「Red Hat Enterprise Linux 5/5 AP/6/7, SUSE Linux Enterprise 11のbondingドライバに対応しています。」は以下の内容に変更となります。
 - Red Hat Enterprise Linux 6/7/8, SUSE Linux Enterprise 11のbondingドライバに対応しています。

- ・ 付録 A 機能対応表
 - 「管理対象マシンのOS毎の対応状況」
 - 表「機能対応表(LinuxOS)」の機能は以下の内容に変更となります。

機能	Red Hat Enterprise Linux 6/7/8	SUSE Linux Enterprise 11
----	--------------------------------	--------------------------

- ・ 付録 A 機能対応表
 - 「仮想環境を管理対象マシンとした場合の対応状況」
 - 「仮想化ソフトウェア」
 - 「■ VMware ESXi 5.5/6/6.5/6.7 の仮想化ソフトウェアに対する機能対応表は以下のとおりです。」と、表の機能は以下の内容に変更となります。
 - VMware ESXi 6/6.5/6.7/7.0の仮想化ソフトウェアに対する機能対応表は以下のとおりです。

機能	ESXi 6/6.5/6.7/7.0
----	--------------------

- 「■ VMware ESXi 5.5/6/6.5/6.7 の仮想化ソフトウェアに対する機能対応表は以下のとおりです。」の「※1 SSC 向け製品で Legacy BIOS モードのマシンに対して OS クリアインストールできます。～」は以下の内容に変更となります。

※1 SSC向け製品でOSクリアインストールできます。詳細は、SigmaSystemCenter 仮想マシンサーバ(ESXi)プロビジョニング ソリューションガイドを参照してください。

- ・ 付録 A 機能対応表
 - 「仮想環境を管理対象マシンとした場合の対応状況」
 - 「ゲスト OS」
 - 「■ VMware ESXi 5.5/6/6.5/6.7のゲストOSに対する機能対応表は以下のとおりです。」と、表の機能は以下の内容に変更となります。
 - VMware ESXi 6/6.5/6.7/7.0のゲストOSに対する機能対応表は以下のとおりです。

機能	VMware ESXi 6/6.5/6.7/7.0のゲストOS(※1)	
	Windows	Linux

3. WebSAM DeploymentManager インストールガイド

- 2.1. DPM サーバをインストールする
 - 「■ データベース(SQL Server)」の
 - 「DPM サーバの OS が Windows Server 2008 R2 のように同梱製品(SQL Server 2017 Express)の～」は以下の内容に変更となります。
 - DPMサーバのOSがWindows Server 2016より前のOSのように同梱製品(SQL Server 2019 Express)の対象OSでない場合は、DPMサーバをインストールする前に、Microsoft社の以下のWebページを参照して、OSがサポート対象としているSQL Serverを確認の上、データベースの構築とインスタンスの作成を行ってください。なお、使用しているSQL Serverの製品バージョン専用のWebページがある場合は、そちらを参照してください。
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/install-windows/install-sql-server-from-the-installation-wizard-setup?view=sql-server-ver15>

- 2.2.2. Linux(x86/x64)版をインストールする
DPM クライアントの動作に必要なライブラリは、以下の内容に変更となります。

	x86	x64
DPMクライアントのインストール	<ul style="list-style-type: none">libpthread.so.0libc.so.*ld-linux.so.*	<ul style="list-style-type: none">libpthread.so.0(※1)libc.so.*(※1)ld-linux.so.*(※1)/lib/libgcc_s.so.1(※4)
ディスク複製OSインストール	<ul style="list-style-type: none">libcrypt.so.*libfreebl3.so	<ul style="list-style-type: none">libcrypt.so.*(※2)libfreebl3.so(※3)

※1 Red Hat Enterprise Linux 6以降で、必要なライブラリが存在していない場合は、以下のrpmをインストールしてください。

- glibc-*.i686.rpm(※5)

※2 Red Hat Enterprise Linux 8以降で、必要なライブラリが存在していない場合は、以下のrpmをインストールしてください。

- libxcrypt-*.i686.rpm(※5)

Red Hat Enterprise Linux 6/7で、必要なライブラリが存在していない場合は、以下のrpmをインストールしてください。

- glibc-*.i686.rpm(※5)

※3 Red Hat Enterprise Linux 6以降で、必要なライブラリが存在していない場合は、以下のrpmをインストールしてください。

- nss-softokn-freebl-*.i686.rpm(※5)

※4 以下のrpmのいずれかをインストールしてください。

- libgcc-*.i386.rpm(※5)
- libgcc-*.i686.rpm(※5)

※5 パッケージのインストール時にパッケージの依存関係を無視するオプション(--nodeps)を指定した場合は、必要なパッケージがインストールされていない可能性がありますので、注意してください。

なお、Compatibility libraries(x64のOS環境でx86用モジュールを動作させるためのライブラリ)をインストールした場合は不要です。

- 3.1.1. アップグレードインストール実行前の注意
 - 「■ 以下のアップグレードインストールができます。」は以下の内容に変更となります。
 - 以下のアップグレードインストールができます。
 - DPM Ver6.3 以降の DPM 単体製品から、DPM 単体製品へのアップグレードインストール
 - DPM Ver6.3 より前のバージョンの場合は、一度 DPM Ver6.3 ～ 6.8 にアップグレードする必要があります。
 - SSC3.7(DPM Ver6.7)以降の SSC 向け製品から、SSC 向け製品へのアップグレードインストール

- ・ 付録 E PostgreSQL のデータベースを構築する
 - 「■ 管理サーバと同一マシン上にデータベースを構築する」の「(3) 以下のファイルを編集してください。」

と

- 「■ 管理サーバとは別のマシン上にデータベースを構築する」の「(4) 以下のファイルを編集してください。」

の編集内容は、以下の内容に変更となります。

パラメータ	既定値	推奨値
log_line_prefix	'%t '	'[%m, %d, %u, %p, %x] '
log_rotation_size	10MB	0(無制限)
log_truncate_on_rotation	off	on

4. WebSAM DeploymentManager オペレーションガイド

- ・ 3.4.1.3. マスタイメージ作成の準備をする

「注:」の

「■ ディスク複製用情報ファイルで指定した DNS 設定を反映させるために、以下の設定をしてください。～」は以下の内容に変更となります。

- ディスク複製用情報ファイルで指定したDNS設定を反映させるために、以下の設定をしてください。
対象のOSがRed Hat Enterprise Linux 7以前の場合は、ディスク複製用情報ファイルで指定したDNS設定を反映させるために、以下の設定をしてください。NetworkManager daemonを有効にすると、ディスク複製用情報ファイルで指定したDNS設定が反映されません。

- Red Hat Enterprise Linux 7

- 1) NetworkManagerのステータスを確認します。

```
#systemctl status NetworkManager
```

(実行結果例)

```
Active: active (running)
```

- 2) 出力結果に「Active: active (running)」と表示されたことを確認後、以下のコマンドをroot権限で実行してNetworkManagerを無効にします。

```
#systemctl disable NetworkManager
#systemctl daemon-reload
#systemctl stop NetworkManager
```

- 3) /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-Auto_Ethernet*ファイルを削除します。

```
#cd /etc/sysconfig/network-scripts
#rm -f ifcfg-Auto_Ethernet*
```

- Red Hat Enterprise Linux 6 以前

- 1) NetworkManagerの起動レベルを確認します。

```
#chkconfig --list NetworkManager
```

(実行結果例)

```
NetworkManager 0:off 1:off 2:on 3:on 4:on 5:on 6:off
```

- 2) 出力結果に一つでも「on」と表示された場合は、以下のコマンドをroot権限で実行して、無効にします。

```
#chkconfig NetworkManager off
```

- SUSE Linux Enterprise 11

(システムの管理ツール「YaST」で設定できます。)

- 1) 「YaST」→「Network Devices」→「Network Settings」→「Network Settings」の画面を開きます。
- 2) 「Global options」タブ-「Network Setup Method」で、「Traditional Method with ifup」にチェックを入れて、「OK」をクリックします。

- 付録 A DHCP サーバを使用しない場合の運用をする
 - 「バックアップ/リストア/ディスク構成チェックをする」の手順(1)の「注:」の表と
- 付録 B 管理サーバを使用せずにリストア(ローカルリストア)する
 - 「ローカルリストア用ブータブル CD を作成する」の「注:」の表は、以下の内容に変更となります。

管理対象マシンの「Deploy-OS」に設定している値	ブータブルCD格納フォルダ
デフォルト値を使用	DPM サーバの「詳細設定」→「全般」タブ 「Deploy-OSのデフォルト値(IA32)」に表示されている名前。 デフォルトは、「ia32_110331_26」です。 該当画面の詳細は、「リファレンスガイド Web コンソール編 2.7.1.1 「全般」タブ」を参照してください。
NEC Express5800 001	ia32_080331_24
<ul style="list-style-type: none"> NEC Express5800 002 VMware ESX Virtual Machine 001 Microsoft Hyper-V Virtual Machine 001 	ia32_110331_26
<ul style="list-style-type: none"> NEC Express5800 006 VMware ESXi Virtual Machine 002 Microsoft Hyper-V Virtual Machine 002 	ia32_121228_26
Microsoft Hyper-V Virtual Machine 003	ia32_180301_3a
VMware ESXi Virtual Machine 003	ia32_150413_26
VMware ESXi Virtual Machine 004	ia32_180430_3a
NEC Express5800 019	ia32_200408_3a
その他	対応する機種対応モジュールの手順書を参照してください。

- 3.6. サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル/アプリ ケーションのインストール(シナリオ方式)
 - 一括ファイル配置機能を使用する場合は、「一括ファイル配置ガイド」を参照してください。

5. WebSAM DeploymentManager リファレンスガイド Web コンソール編

- 3.11.1.5. System_LinuxChgIP/System_WindowsChgIP
 - 「注:」の「■ System_LinuxChgIP シナリオを使用する場合は、以下の点に注意してください。」の「NetworkManager daemon を無効に設定してください。～」は以下の内容に変更となります。
Red Hat Enterprise Linux 7 以前の場合は、NetworkManager daemon を無効に設定してください。
手順の詳細については、「オペレーションガイド 3.4.1.3 マスタイメージ作成の準備をする」の注意に記載の「■ディスク複製用情報ファイルで指定した DNS 設定を反映させるために、以下の設定をしてください。」を参照してください。
- 3.13.3. 「パッケージ」タブ
- 3.17. イメージの詳細情報
 - 一括ファイル配置機能を使用する場合は、「一括ファイル配置ガイド」を参照してください。
- 「パッケージ実行結果一覧」画面が新規追加されました。詳細は「一括ファイル配置ガイド」を参照してください。

6. WebSAM DeploymentManager リファレンスガイド ツール編

・ 1.2. オペレーティングシステムの登録

- － 表「オペレーティングシステムの登録」の「オペレーティングシステム種別」は以下の内容に変更となります。

オペレーティングシステム種別	リストボックスから以下のオペレーティングシステムを設定します。 デフォルトは、「Red Hat Enterprise Linux 8」です。 ・ Red Hat Enterprise Linux 3,4,5/VMware ESX/Citrix XenServer(※1) ・ Red Hat Enterprise Linux 6 ・ Red Hat Enterprise Linux 7 ・ Red Hat Enterprise Linux 8
-----------------------	---

- － 表「オペレーティングシステムの登録」の「initrd.img/vmlinuzのフォルダ」は以下の内容に変更となります。

initrd.img/vmlinuzのフォルダ	フロッピーディスクのドライブが表示されます。デフォルトは、「A:¥」です。 「参照」ボタンをクリックして、「initrd.img/vmlinuz」が格納されている箇所を指定して設定できます。 Red Hat Enterprise Linux 6以降の場合は、インストール用ISOファイルをマウントしてimages/pxebootを指定してください。
--------------------------------	--

・ 1.3.3. ディスク複製用情報ファイルの作成(Linux)

- － 「■ ネットワーク情報設定」の「注:」の

「■ NetworkManager daemonが有効な環境では、ディスク複製用情報ファイルで指定したDNS設定は～」は以下の内容に変更となります。

■ Red Hat Enterprise Linux 7以前で、NetworkManager daemonが有効な環境では、ディスク複製用情報ファイルで指定したDNS設定は反映されません。

詳細は、「オペレーションガイド 3.4.1.3 マスタイメージ作成の準備をする」の注意に記載の「■ ディスク複製用情報ファイルで指定したDNS設定を反映させるために、以下の設定をしてください。」を参照してください。

- － 表「ネットワーク情報設定画面」の「ホスト名」に以下を追加します。

Red Hat Enterprise Linux 8 以降の場合は、使用できる文字は、
半角英数字と以下の半角記号です。

・ -

- － 表「ネットワーク情報設定画面」の「IPv6設定」は以下の内容に変更となります。

IPv6設定	「IPv6設定」チェックボックスにチェックを入れると、IPv6アドレスの設定ができます。 Red Hat Enterprise Linux 6/7/8に対応しています。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
---------------	---

・ 1.3.5. OS クリアインストール用パラメータファイル作成(Linux)

- － 表「インストールパラメータ設定ツール」の「インストール OS」、「※1」と「注」は以下の内容に変更となります。

インストールOS (設定必須)	インストールOSの種類をリストボックスから選択します。 デフォルトは、「Red Hat Enterprise Linux 8」です。 インストールOS選択時、ブートディレクトリが未入力の場合は、選択したインストールOSに該当するブートディレクトリのデフォルトが、ブートディレクトリに設定されます。(※1)
----------------------------	--

※1 インストールOSは、一覧から以下のLinux OSが選択できます。

インストールOS	ブートディレクトリデフォルト	対応アーキテクチャ
Red Hat Enterprise Linux 6	RedHatServer6	x86/x64
Red Hat Enterprise Linux 7	RedHatServer7	x64
Red Hat Enterprise Linux 8	RedHatServer8	x64

注:

- Red Hat Enterprise Linux 6以降は対応するOSを選択してください。

- 表「パッケージ情報設定」の「導入パッケージグループ設定」は以下の内容に変更となります。

導入パッケージグループ設定	<p>インストール作業で導入するソフトパッケージグループを設定します。一覧から選択してください。複数選択できます。</p> <p>一覧は、「基本情報設定」画面の「インストールOS」により内容が変わります。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 7の場合は、以下の項目も選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Base ・ Network File System Client ・ GNOME(、またはKDE) <p>「Xウィンドウ情報設定」画面で指定した内容に合わせて、「GNOME」、または「KDE」のいずれかを選択してください。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 8以降の場合は、以下の項目も選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Base-x ・ Network File System Client ・ GNOME <p>「Xウィンドウ情報設定」画面で指定した内容に合わせて、「GNOME」を選択してください。</p>
----------------------	---

- 表「認証情報設定」の「認証方法」と「NIS認証を有効にします」は以下の内容に変更となります。

認証方法	<p>ユーザ認証方法を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シャドウパスワードを使用します ユーザパスワードにシャドウパスワードを使用する場合にチェックを入れてください。 ・ MD5を使用します ユーザパスワードにMD5暗号化を使用する場合にチェックを入れてください。 <p>Red Hat Enterprise Linux 8以降の場合は、本項目は設定できません。</p>
NIS認証を有効にします	<p>NIS(Network Information Service)認証を行う場合は、「NIS認証を有効にします」のチェックボックスにチェックを入れてください。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 8以降の場合は、本項目は設定できません。</p>

- 表「ネットワーク情報設定」の「ホスト名」に以下を追加します。

Red Hat Enterprise Linux 8 以降の場合は、使用できる文字は、半角英数字と以下の半角記号です。

・ -

- ・ 1.4. パッケージの登録/修正
- ・ 1.4.1. Windows パッケージ作成
- ・ 1.4.2. Windows パッケージ修正
- ・ 1.4.3. Linux パッケージ作成
- ・ 1.4.4. Linux パッケージ修正
- ・ 1.5. 登録データの削除

一括ファイル配置機能を使用する場合は、「一括ファイル配置ガイド」を参照してください。

7. WebSAM DeploymentManager リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編

- ・ 1.7. データベース移行手順
 - 手順(10)の「データベースの設定が完了しました」というメッセージが表示されます。」は以下の内容に変更となります。

「DPMのサービスを停止して設定を保存します。保存後は自動的にサービスを起動します。保存してもよろしいですか?」のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。

「データベースの設定が完了しました」というメッセージが表示されます。

・ 3.9.2. バックアップ/リストア/ディスク構成チェック

– Q92 の表は以下の内容に変更となります。

「Deploy-OS」に設定している値	ドライバファイル格納フォルダ ※
デフォルト値を使用	<イメージ格納用フォルダ>%FD-Linux%drivers%<デフォルト> 上記の<デフォルト>とは、DPMサーバの「詳細設定」→「全般」タブ 「Deploy-OSのデフォルト値(IA32)」に表示されている名前です。デフォルトは、「ia32_110331_26」です。
NEC Express5800 001	<イメージ格納用フォルダ>%FD-Linux%drivers%ia32_080331_24
NEC Express5800 002	
VMware ESX Virtual Machine 001	
Microsoft Hyper-V Virtual Machine 001	
NEC Express5800 006	<イメージ格納用フォルダ>%FD-Linux%drivers%ia32_121228_26
VMware ESXi Virtual Machine 002	
Microsoft Hyper-V Virtual Machine 002	
VMware ESXi Virtual Machine 003	
NEC Express5800 019	<イメージ格納用フォルダ>%FD-Linux%drivers%ia32_200408_3a
その他	<イメージ格納用フォルダ>%FD-Linux%drivers%<ia32_xxxxxx_xx> (x: 数字) 上記の<ia32_xxxxxx_xx>は、対応する機種対応モジュールの手順書を参照して決定してください。 例: DPM60_007e の場合 → ia32_130726_26 となります。